

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ございしょの里 2号棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371100413		
法人名	有限会社 古川商事		
事業所名	グループホーム ございしょの里 2号棟		
所在地	〒026-0301 岩手県釜石市鶴住居町第23地割21番地1		
自己評価作成日	令和5年11月9日	評価結果市町村受理日	令和6年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気あるグループホームを目指してレクリエーションを取り入れ他のユニットとの交流の場も増えてきている。各ユニットで日々レクリエーションを取り入れたりと活動的に行なっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設からの基本理念である「太陽の如く、あかるく、あたたかく、まろく支援する。」を、毎朝の申し送りや月例の職員会議の場で唱和・確認し、日々の介護支援に繋げている。医療においては、ほぼ全員が受診している市内のクリニックでは、月2回の訪問診療のほか、夜間の医療相談や往診にも応じており、医療連携体制が良好である。また、看取りについても、同クリニックの協力を得て取り組まれており、本人や家族の安心にもつながっている。コロナ禍が少しづつ緩和される中、地元の祭りが再開されて、昔馴染みの虎舞や鹿踊りが久しぶりに訪問してくれるなど、利用者の楽しみが増えている。職員は、外出機会が少ない中において、利用者が楽しく過ごせるよう様々な活動を考え、実践に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム ございしょの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念をホールに掲示している。ミーティングで理念について職員で話し合い実践につなげております。	開設時からの「太陽の如くあかるく、あたたかく、まろく支援する」の基本理念は、入居者を暖かく包み込むことを意識したものである。ホール内に掲示するほか、毎朝の申し送り時や毎月の職員会議で職員が唱和して確認と共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と鶴住居祭りで虎舞、鹿踊りを見物したりと交流しております。	町内会に加入し回覧板が回ってきており、地域の情報を確認できている。今年、地域の鶴住居まつりが復活し、当事業所にも虎舞や鹿踊りが来て、踊りを披露してくれた。保育園や小中学校は、大震災からの復興事業で少し離れた高台に移転している。大震災以降中止されてきた町内会の行事は、コロナ禍もあって交流事業などはまだ復活していない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所独自の取り組みはしていません。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議は会議形式での開催を中止し会議資料を地域包括支援センター、委員、職員の方に配布し書面による質疑をとっています。	コロナ感染対策のため、まだ書面開催を継続している。資料のお届け時に、意見や質問を出してもらうよう依頼しているが、あまり出されていない。委員からの意見を出しやすい工夫や、集合開催の再開について、近隣の状況などを情報収集していくこととしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に行政職員の方がおり、色々相談して協力関係を築いております。	地域包括支援センター職員が運営推進会議委員であり、毎回資料を送っており、入退所に関する情報交換等を行っている。市の担当課とは介護認定や更新手続き等を通じて連携している。生活保護を受給している方がいるが、ケースワーカーの来訪はあまりない。保健所からはコロナ検査キットの提供が継続しており、定期的にチェックを行っている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が利用者の見守りを行い、居室や玄関に鍵をかけていません。安全確認の為夜間のみ玄関に施錠しています。	全職員をメンバーとし、委員会を3か月毎に開催している。ベッドサークルや徘徊などをテーマに職員研修も行っている。スピーチロックについて、行動を制したり、待つていただく場面などで不適切な声掛けがある場合には、その都度管理者から注意喚起している。家族の了解を得てベッドセンサーを2人が使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度ではありますが内部研修を行い、虐待はあってはならない指導をしております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護を利用されている方は1名おりません。全スタッフが専門的な外部研修を受けていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約については、サービスを利用する前に、利用者及び利用者家族に契約書・重要契約説明書を用いて説明し、その上で署名捺印を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に相談及び苦情受付窓口設けている事を記載しております。玄関に「投書箱」を設置しています。苦情や要望はありませんが担当スタッフが敏速に対応するようにしております。	家族には、毎月の広報誌を職員手書きで近況についての「ございしよの里便り」を添えて送付しており、家族からは生活の様子が分かり易いとの感謝の声をいただいている。面会や通院の付き添いで来訪する際にも、職員が面談して意見や要望を伺っているが、運営に関する意見は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員よりレクリエーションで使うもの(体操DVD)提案され購入するなど職員の提案が反映されている。	毎朝の申し送り時などに、職員の意見や要望を確認しており、調理用具の更新や、ごぼう先生の体操、口腔体操DVDの購入、豆つかみゲームや屋外でのバーベキュー、花見食事会などの様々なアイデアが出されており、多くが実現されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講している。内部研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会に参加している。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身の状況を把握し、本人が安心して過ごせるよう声掛け、傾聴に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を希望される御家族からも意向を伺うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の基本情報を支援の参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段、利用者と職員が楽しみごとを一緒に楽しむように心掛けております。		

事業所名 : グループホーム ございしよの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のお便りを通して、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	2か月に1回の美容師の訪問による髪のカットや談笑が利用者の楽しみとなり馴染みの人との関係が途切れないよう支援に努めている。	地元の理美容師が2か月毎に来訪しており、全員が利用して新たな馴染みとなっている。また、今年は久しぶりに復活した馴染みの虎舞や鹿踊りが訪問してくれて、楽しい時間を過ごした。ご家族以外に友人や知人の訪問はないが、お盆には家族が付き添って外泊してきた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で助け合ったり支えあったりする事が出来るような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点においては、契約終了後に継続的な関わりを必要・希望される方はおりませんが今後、継続的な関わりを必要とする利用者、家族がいたら誠意をもって対応していきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話に耳を傾け、希望、意向の把握に努めている。	思いや意向を言葉で表せる方は、各ユニット併せて6人ほどであり、おやつやおかずなどの食事に関する要望が多く、できるだけ要望には対応している。言葉で表せない方には普段から動作や仕草の特徴を職員間で共有し、声掛けやジェスチャーで思いをくみ取るようにして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時、本人や家族から話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上申し送る。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、家族、本人の希望や意見を取り入れて作成している。	ケアマネと計画作成担当で各ユニット毎の介護計画を作成している。入居時には暫定的な計画として、以降は概ね3か月をめぐりに見直しを行い、ケアマネによるモニタリングについて全職員がカンファレンスの場で検討している。居室担当制とせず、全職員が担当することとしており、モニタリングも全職員で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、介護記録、申し送りノートに記録し、引き継ぎ時口頭で状況報告の上もう送る。 (職員間の情報交換現状の把握)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム内でのデイサービス、ショートステイは実施していない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を利用しております。	現在は、市内のクリニックから月2回の訪問診療をほぼ全ての利用者が利用しており、職員の通院同行などの負担が大きく減じている。同クリニックでは、夜間の電話相談や往診にも応じており、職員は安心感を得ている。処方薬は薬剤師が分包して届けてくれており、医療面での連携が良好に図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいないので、バイタルを測定し、日頃と変わった時はすぐに病院受診しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった時その利用者の経過記録報告する事や介護サマリー(普段の様子)を詳しく伝えるようにしている。早期退院計画は、していません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	異常時は、かかりつけ医に連絡、受診し医師の判断をあおぐようにしています。	入居時に重度化した場合の対応について、看取りにも取り組んでいることを含めて説明し了解を得ている。訪問診療が主になって以降、看取りを希望する方が多くなり、今年も3名の看取りを行っている。不安を感じる経験の浅い職員には看取りに関する研修やメンタルケアも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、職員がいつでも閲覧できる場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年に2回行っている。	ハザードマップでは浸水や土砂崩れの心配がない地域となっているため、避難訓練は火災想定で年2回実施している。12月には夜間想定訓練を実施したが、2人の職員で2階からの避難が大変で、時間も要することが課題として認識された。近所に住む住民から協力者を確保することが必要となっている。	夜間避難の際には、職員が2人だけであり2階からの避難には相当の困難が予想されます。このため、町内会や消防団からの協力者の確保について検討されるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや誇りに配慮し、普段から言葉使いや対応については、職員間で声掛けあつて直すように取り組んでいます。	利用者への声掛けは必ず「さん」付けとして、丁寧な言葉遣いを心掛けている。居室訪問の時は、必ずノックをし、トイレ誘導では他の利用者が気づかないような声掛けとしている。クロスワードパズルや計算ドリル、折り紙など、本人が得意とする活動を尊重し続けられるよう努めている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者とゆっくりと会話している。服装、食事などで入居者に対して見守りの中で自由にさせ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望が実現できるようにその都度意向を伺っていますが、その希望すべてに応え切れない事もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望に任せている。希望のメニューを聞いたり後片付けを一緒に行っている。	調理は、1号棟は職員が、2号棟は調理員が行い、献立は調理員と職員が担当している。利用者の好みはなるべくメニューやおやつに反映している。カレーやハヤシライス、サバ等の希望が多い。ドーナツづくりなども職員と一緒に楽しんでいる。また、利用者はテーブル拭きや下膳、干し柿づくり等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の身体状況や咀嚼能力に応じた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態で見守り、声掛け介助を行い口腔ケアを行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便・尿の回数チェックを行っており、それぞれに合わせた排泄支援を行っている。	オムツ使用の2名の他は、布パンツ使用又はハビリパンツ使用となっている。排泄チェック表をもとに、本人の様子を確認しながら、適時のトイレ誘導を行っている。失禁時には周りに気づかれないよう、さり気無く居室に誘導して、更衣している。夜間は、履物に付けた鈴の音で職員が気付くよう工夫している。	



令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしょの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために飲食物の工夫や適度の運動をしてもらうよう支援している。一人一人の状態に合わせて薬を使用するなどしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	希望がない限りは、3日に1度の入浴です。入浴中は、リラックスができて楽しく気持ちよく過ごせるよう心掛けている。	週2回午前中の中の入浴とし、1号棟は一般浴槽、2号棟は足を伸ばせる大型浴槽を使用している。職員2名での支援が必要な方もいる。入浴時間は職員と1対1となり、食事の話題や戦争体験等を良く話されている。季節を感じられる菖蒲湯やゆず湯も提供し、楽しまれている。暑い時期には希望に応じてシャワー浴も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、使い慣れている物が良いと伝えて持ち込んでいただいております。昼寝や就寝時間は、利用者に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ホームで薬の管理は行い医師の指示で服薬している。服薬リストを介護日誌にセットし、職員が目を通すように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	休憩室で体操する入居者、歌を唄う入居者、計算ドリル、漢字ドリルをする入居者とそれぞれ好きなことをしていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、希望により日常的に散歩(施設中庭)をしたり、施設の庭で花見をしながら食事会をしたり花火・スイカ割・バーベキューをしたりと楽しんでいただいております。コロナウイルス感染防止のためバスハイクは実施しておりません。	コロナ感染対策のため、事業所の敷地内での散歩程度に止まっている。近所にある公園までの散歩や、ミニドライブ等による外出の再開を望む声も職員から聴かれている。このため、少人数からの外出再開について検討したいとしている。	コロナ感染対策に適切に配慮しながら、外出機会を検討する時期になっており、利用者の楽しみの確保に向けた検討を期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の預り金は、施設で管理しています。入居者が希望する時は、職員同行するなど対応しています。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ございしよの里 2号棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に手紙を出したいと言う入居者はいませんが、家族に電話をかけたいと言う入居者には職員がついて支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔第一と考え、快適に過ごしていただけるよう、季節の花を飾ったり、季節の飾り付けを作ったりと楽しんでいただいております。	ホールとキッチン近接し、調理中の良い匂いが漂い食欲を誘ってくれる。壁面には、利用者や職員による作品や季節を感じられる装飾が飾られ、アットホームな雰囲気となっている。ホール内は、大型温風ヒーターやエアコン、加湿器により適温に保たれており、利用者はくつろいで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室の2階の廊下に椅子を用意して思い思いに過ごす場所は確保できています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自宅と同じに考え利用者に今まで使用していた物を出来る限り使用するよう進め利用者の好みに任せています。	入口には、動物や鳥のネームプレートを用いている。ベッドやイス等が備え付けられており、利用者は、衣装ケースやテレビ、位牌、家族写真などを持ち込んでいる。壁には、好みの俳優写真や自分の作品などを飾り、居心地よい居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる場所に、手すりを設置しております。又、廊下に休みできる場所を設けるなど工夫しております。		